

令和7年度「南会津建設事務所設計時施工技術検討会」実施結果について

1 概要

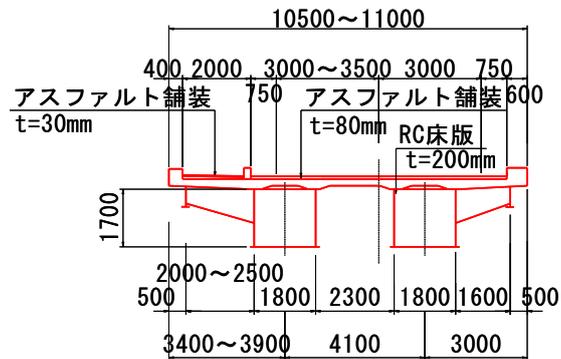
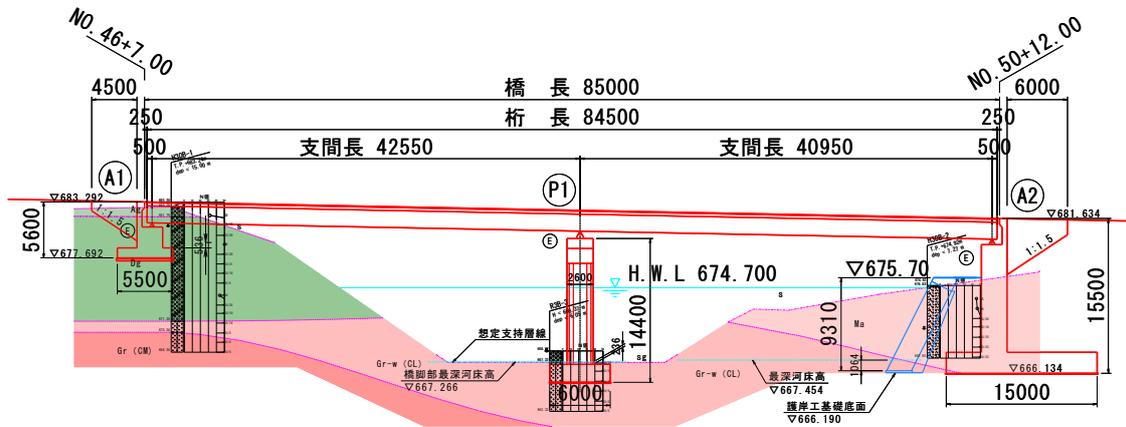
国道 352 号南会津町福渡地内に架かる穴沢橋は、老朽化のために架け替え工事に着手しているが、架橋位置が館岩川と湯ノ岐川の合流点に位置し、支持地盤が想定より強固な岩盤で橋脚の岩掘削方法に変更を余儀なくされる等、施工条件が厳しいため、施工順序や施工方法については橋梁架設や下部工施工における専門的知識を有する者の意見を踏まえ、改めて現場条件に適した架設計画及び工程計画とすることを目的として設計時施工技術検討会を開催した。

2 事業内容

路線名：国道 352 号

施工箇所：南会津郡南会津町福渡地内 穴沢橋

工事概要：2 径間連続鋼箱桁橋 L=85.0m W=10.5~11.0m



3 設計時施工技術検討会実施時期

第1回設計時施工技術検討会（令和7年3月4日（火））

第2回設計時施工技術検討会（令和7年4月17日（木））

4 第1回検討会の主な内容

- ① 架設ヤードへ進入する工事用道路の縦断勾配の緩和を検討する。
- ② A1～P1の架設において、河川内へのベント設備の設置及び河川内を工事用道路が横断することは、施工困難かつ河川管理上問題があるので別の方法を検討する。
- ③ A1と既設用水路の間にベント設備が設置できれば別に有効な架設方法が検討できるため、精度を高めて検討する。



写真1 現地調査



写真2 技術検討会

5 第2回検討会の主な内容

- ① 工事用道路の縦断勾配は検討の結果、10%→8.7%に緩和し、施工性向上を図った。
- ② A1～P1の架設において、A1と既設用水路の間にベント設備が設置可能かを検討した結果、設置できることが分かった。
- ③ 架設方法の検討の結果、P1側から1ブロックを張り出し架設し、A1側から3ブロックを地組し、550t吊クレーンで一括架設することが可能と分かった。
- ④ 架設の工程表は、上部工施工会社への聞き取りによる工程で計画しているが、日当り施工量から不稼働率を考慮した実稼働での工程を作成する必要がある。



写真3 第2回技術検討会

6 検討結果

第1回検討会でアドバイザーから出された意見に対し、詳細に検討した結果を第2回検討会で報告し議論した結果、最終的な架設方法を確定できた。

当初、A1～P1の架設は、河川内にベント設備を設置し、200t吊クレーンで両岸から架設する方法、またはA1側から1径間分の全ブロックを地組し、道路を一時的に通行止めにして700t吊クレーンで一括架設する方法を検討していた。

しかし、提案を基に検討した結果、P1側から1ブロックを張り出し架設することで、残り3ブロックをA1側から550t吊クレーンで一括架設することが最も効率的な架設方法であると結論づけられた。

今後は、上記工法のより詳細な施工計画と工程表を基に、現場条件に即した安全な施工を行う。